

交通政策について
(市営バスの利用状況について)

1 これまでの交通局の経営改善の取り組み

少子高齢化、モーダルシフトの影響を受ける中、市民の足としての市営バス路線を維持するため、第3次北九州市営バス事業経営計画（令和3年度～7年度）に基づき、様々な経営改善の取り組みを進めてきた。

- (例) ① 全国で相互利用可能なICカード「nimoca」の導入
② お買い物バス運行ルート拡充（2コース→7コース）
③ バスロケーションシステムの導入
④ 抜本的な運行系統の整理（幹線と支線）

2 交通事業の経営状況

交通事業会計の令和3年度決算は、新型コロナウイルス感染症の影響が継続する中、大変厳しい結果となった。

交通事業会計の決算 (単位：百万円)

| | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|---------|-------|-------|-------|
| 単年度資金収支 | △256 | △206 | △281 |
| 累積資金剰余 | 1,144 | 938 | 658 |

乗合収入の決算 (単位：百万円)

| | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|------|-------|-------|-------|
| 乗合収入 | 971 | 686 | 652 |

3 乗合バスの現状、今後の取り組み

(1) 令和4年度上半期の乗合バスの収支状況

乗合収入は、令和4年度も新型コロナウイルス感染症の影響から回復しきれず、厳しい状況がなお続いている。

・黒字路線：12系統（14.8%） ・赤字路線：69系統（85.2%）

(2) 今後の検討の方向性

厳しい経営状況や、乗務員不足を踏まえ、市営バス事業の存続維持のため、以下の検討を進めている。

- ① 経費削減と増収対策（車両台数の削減、広告収入の増など）
- ② 路線ごとの収支状況の公開
- ③ 効率的・効果的なダイヤ編成の見直し
- ④ より適正な運賃体系の研究
- ⑤ 公共交通としての市営バス事業のあり方の検討

4 路線ごとの利用状況について

(1) 目的

上記の経営改善の取り組みを推進するためにも、市民の皆様に現状についての理解を深めていただくため、市営バスの路線ごとの利用状況を示す。

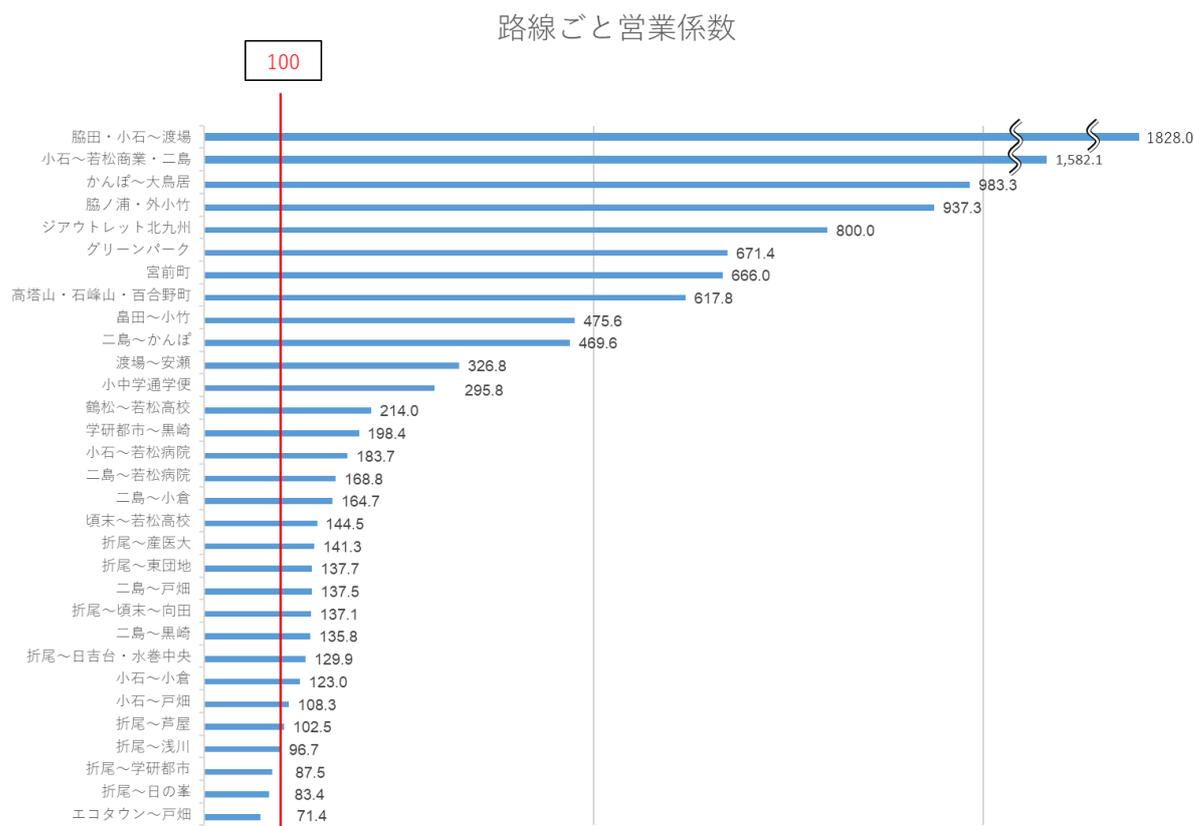
(2) 概要

路線ごとの営業係数については下表のとおりである。

上半期は、乗合バス全体として、100円の収益を上げるために約132円の費用を要している状況。

※「営業係数」は、路線ごとの黒字赤字を示す指標。

100円の収入を得るための経費を示し、100を超えると赤字。



(3) 路線ごとの「1便当たりの利用者数」及び「営業係数」

別紙「路線ごと令和4年度上半期（R4.4～9月）利用状況」のとおり。

(4) 利用状況の公開

- ① 交通局ホームページにて利用状況を公開する。
- ② 市営バスに対しての意見聴取のため、ホームページによりアンケートを実施する。

実施期間：11月18日（金）～12月16日（金）